

美しきことの葉くさや福寿草
 初夢を朝茶はなしの序出ついでかな
 一夜さも旅はたひなり冴返る
 引鶴や古郷道も久しふり
 酒つくる泉もてある柳かな
 鶴は田に下りけり空に舞雲雀
 梅提て藪入らしき支度かな

素風
 朴齋
 米甫
 雪窓
 文規
 北外
 一松

⑦④ 琶岬七十賀摺
 石井君の七十の賀をむかへ給ふと
 きゝて
 かきりなき君の齢をひさかたの
 雲井はるかに祝ふけふかな
 七十の春を迎へて動きなき
 いしの水や千代に流れん
 濁り行世には習はて幾千代も
 いしいの清水澄かへるらむ
 千歳山のほらん君か杖にとて
 かねてうへにし園の呉竹
 珍らしく経し七十路をことしより
 また七度を君や重ねむ
 千万にかけす崩れず動きなき
 いはし山は君かよはひそ
 ことしより千とせの山の梅さくら
 花をかさして君やこゆらん
 三千とせに咲てふ花を幾度か
 君や見なまし亀に習ひて
 梓弓春に会津の安積山
 たかねの松の齢へぬらん
 おのつから石井の水の清ければ
 万代しめて亀や住らむ
 稀なりといへる齢をふもとにて
 千代さかへ行きみそ愛たき
 過行し曆を捨て早とせ
 またのこよみも君やかそへん
 植置し常磐の松は君ならて
 千代のよはひを誰にゆつらむ
 君の行千とせの阪にくらふれば
 また七十はふもととなりけり
 賀琶岬石井翁古稀寿

若松 壽則
 奥川 盛至
 若松 規義
 八十二叟 曉村
 八十一姥 千枝子
 男 義恵
 孫 俊彦
 重敬
 北章
 福良七十四 信壽
 猪苗代 美香
 若松 喜一
 猪苗代 英知
 石城 大須賀筠彭

明治二十九年第一月
 ⑦③ 新年摺
 松山を出て来て
 むめの流れかな
 羽洲

輝くや連なる山にはつ日の出
 神棚に切火の音や初からず
 遊ぶ子の知恵もすゝむやけさの春
 初東風の吹掛けり去年の塵
 砂払ふ烏帽子の紐やはつ子の日
 齢自慢はかりの客や年始会
 月花に設けた窓やはつ明り
 万歳と呼ぶもうれしや門の声
 出て行はわれも礼者のひとり哉
 愛敬に最ひとつ咲く福寿草

稍美
 芳處
 素心
 春江
 美澄
 淡水
 其徳
 梅守
 無揚
 支仙

喬木数竿擁玉堂 田林緒佑帯和光
 最韻供老窓風趣 十七字顯冠一方
 同
 喬木数竿擁玉堂 田林緒佑帯和光
 最韻供老窓風趣 十七字顯冠一方

福良 松本柳場
 石城 大須賀筠彭
 猪苗代 英知
 若松 喜一
 猪苗代 美香
 福良七十四 信壽
 北章
 孫 俊彦
 重敬
 男 義恵
 八十一姥 千枝子
 八十二叟 曉村
 若松 規義
 奥川 盛至
 若松 壽則